

～新渡戸記念の～

『言葉の院外処方箋』

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第38回 『[仰ぎ見よ]～『人生は短し、真理は長し』～』

コロナ時代は、新年会もなく、静かな正月であった。清木元治先生（東京大学名誉教授）から年賀状を頂いた。清木元治先生と一緒に、東京都文京区大塚にあった癌研時代（現在は、東京都江東区有明がん研究所に移転）の友人（井上純一郎先生：東京大学医科学研究所 特命教授）からテレビのビデオ

（https://news.tv-asahi.co.jp/news_society/articles/000202876.html）

が、送られて来た。想えば、筆者にとって、癌研は、『がん病理学者』としての出発の原点であり、まさに、『よき先生、よき友、よき読書：人生の三大邂逅』（添付：『がん哲学外来さいわいカフェ』代表：海老澤規子氏から届いた）であった。今日（2021年1月2日）は、テレビで『四季の歌』を拝聴した。『心清き人 すみれの花のような ぼくの友だち』の歌詞を実感した。『余に一生の希望があった。— 土の器にすぎない。ただし器は無きにまさるべし。あえてこれを世に提供するゆえんである。— 人生は短し、真理は長し。』（内村鑑三 著：ローマ書の研究）が、2021年の正月に鮮明に蘇って来た。[仰ぎ見よ]の新年となった。



よき先生、よき友、よき読書。
人生の三大邂逅

出典「病気は人生の夏休み」樋野興夫80

画像 1